

## 第2学年 算数科学習指導案

日 時 平成21年10月6日(火) 5・6校時

児童数 1組 男15名 女7名 計22名

2組 男15名 女6名 計21名

指導者 1組 外館久美子 2組 小関江利子

### 1 単元名 新しい計算を考えよう

【かけ算(1)】(教科書 東京書籍2年下 2ページ～23ページ)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領第2学年の内容A(3)「乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。」ことをねらいとし、

ア 乗法が用いられる場合について知ること。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

エ 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えること。

ことを内容としている。

第1学年では、10のまとまりをつくり、その数を数えて総数を求めたり、2とびや5とびでも総数を求めたりするなど、同じ数のまとまりの個数を数えてものの総数を求めるといった乗法の素地的な経験をしている。

本単元では、このような経験をもとに「1つ分の数」×「いくつ分」＝「全部の数」として乗法を意味づけ、半具体物で乗法の場面を表現したり、身の回りで乗法が適用できる場面を探したりする活動などを取り入れ、乗法の意味の理解を確実にする。九九の構成の学習では、アレイ図や半具体物などを活用しながら、同数累加をはじめ、乗数と積の関係(乗数が1ふえると、積は被乗数だけ増えること)にも着目させながら、児童が自ら九九をつくり出すことを大切にする。そして、九九を覚えておけば計算が速くでき、便利であることにも気づかせるようにする。

#### (2) 児童について

算数の時間、学習に対して意欲的に取り組む児童は多い。特に新しい学習内容に入るときには、高い関心を示している。だが、文章問題で問題場面をとらえるのが困難な児童や、自力解決で取り組んだ方法を説明することを苦手としている児童がいる。7月に行ったアンケート調査では「自分の考えを順序よく説明できますか」に対して、約6割の児童が「説明できる」としている。しかし全体での集団解決の場面で、自分の考えを説明する子は固定化している上、表現に不足のある場合も多く、何人かで補い合いながら行っている。

事前に行ったレディネステストの結果は、次の通りである。

問 題 の ね ら い	正答率
数を正しく数え、5ずつまとめることができるか。	100%
5を単位として、いくつ分あるか分かっているか。	90%
「1あたりの数」と「いくつ分」に着目して問題場面をとらえ、答えを求めることができるか。	97%
10とび、5とび、2とびなどの数の系列が分かっているか。	93%
【未習内容】かけ算の意味が分かり、立式して答えを求めることができるか。	55%
【未習内容】かけ算九九を知っているか。	48%

レディネステストの結果から、児童は既習事項については、数の系列についてつまづいている児童もいるが、おおむね理解しているといえる。しかし、かけ算になる場面では、総数を求めることができたが、数えたしで求める児童も多く、「ひとつ分」の数のまとまりを意識しているとはいえない。さらに、未習事項のかけ算の意味や九九については、半数の児童が理解していない。したがって、丁寧にかかけ算の意味を理解させ、九九を覚えさせる必要がある。

### (3) 指導にあたって

乗法は新しい概念の学習である。本単元は「かけ算」「5の段、2の段の九九」「3の段、4の段」の3つの小単元に分けて指導する。

まず第1小単元では、半具体物の操作を十分に行い、式と言葉を関連づけながら指導し、「1つ分の数」×「いくつ分」を理解させていきたい。さらに乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加し求める方法で確実に定着させていきたい。

第2小単元では、第1小単元における乗法の理解をいっそう深めながら、累加による求め方をもとにして、5の段、2の段を構成する。ここで九九という言葉を使い、累加では煩雑であったかけ算を記憶することで、格段に便利になる体験を通して、九九を理解させていきたい。

第3小単元では、3の段、4の段と九九を構成する中で、九九の法則性を明らかにし、児童自ら九九を構成していけるようにさせたい。

研究内容1「自分の考えをもつための算数的活動を位置づけた指導の充実」の手立てとしては、算数コーナーを活用しながら前時までの学習内容をふりかえる。また絵図を活用したり、方法の見通しを丁寧に行ったりすることで、自力解決の際、自分の考えをもてるようにしていきたい。第2、第3小単元の九九を構成する学習においては、アレイ図や同数累加の考えから九九へとつながるシートを活用することで、自分の考えを持たせていきたい。

研究内容2「確かに表現できる力を育てるための算数的活動を位置づけた指導の充実」の手立てとして、全体での集団解決の前には、ペア同士で考えを発表させ、一人一人に自分の考えを話す機会を与えていく。またペア同士で伝え合うことで、自分の考えを整理させたり、比較させたりする。自分の考えを発表する際には、順序よく話させて、進めていきたい。

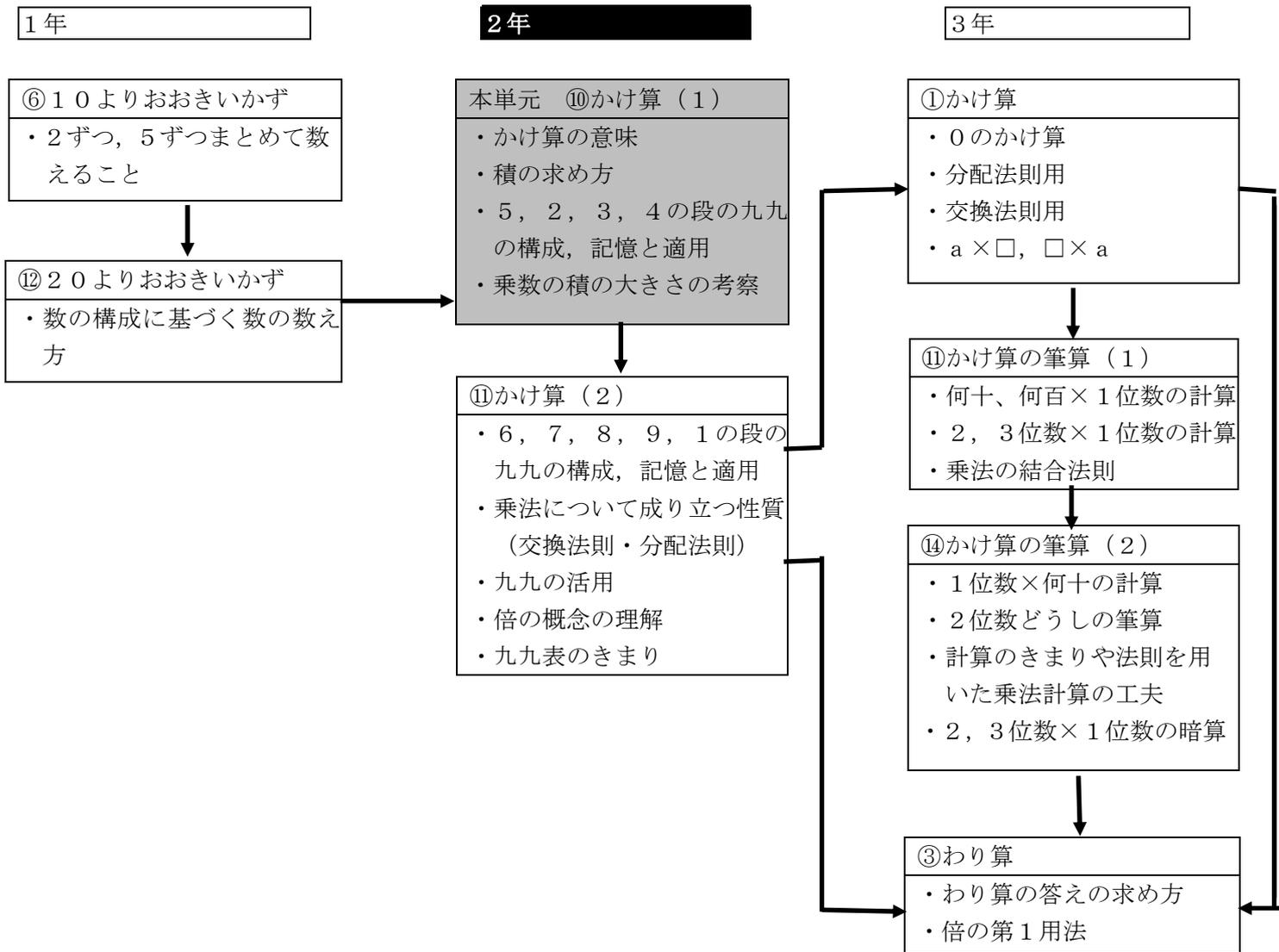
## 3 単元の目標

乗法の意味について理解し、それを用いることができる。

- ・乗法のよさについて気づき、ものの全体の個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。  
(関心・意欲・態度)
- ・乗法九九が用いられている場合について、「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえて全体の個数の求め方について考える。(数学的な考え)
- ・乗法が用いられる場合を具体物や式であらわすことができる。(表現・処理)
- ・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)を構成し、確実に唱えることができる。(表現・処理)
- ・乗法が用いられる場合を理解する。(知識・理解)
- ・乗法九九(5, 2, 3, 4の段)の構成のしかたを理解する。(知識・理解)

#### 4 指導計画

##### (1) 教材の関連と発展



##### (2) 単元指導計画・評価計画

時	目標	学習活動	おもな評価基準
① かけ算			【7時間】 p 2～10
1	【プロローグ】		
2	<p>p. 2の絵を提示し, 遊園地の入り口付近で整列した人とばらばらの人の数を数えることを通して, 新しい計算への興味, 関心を高める。</p> <p>○ 「1つぶんの大きさ」「いくつぶん」ととらえられるようになる。</p>	<p>・ 絵を見て, それぞれの乗り物に乗っている子どもの人数を調べる。</p> <p>・ 総数が同じでも1台に同じ人数ずつ乗っているものといないものがあることや, 同じ人数ずつ乗っている場合でも1台に乗っている人数が違うことから「1つぶんの大きさ」と「いくつ分」ととらえる。</p>	<p>考数量を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえることができる。</p>

3 (1組本時) ・ 4	○乗法の意味を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>6 \times 3 = 18</math> の式の意味を理解する。</li> <li>・ 用語「かけ算」を知る。</li> <li>・ 乗法の場面を式に表す。</li> </ul>	<b>表</b> 乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、式を読んだりすることができる。 <b>知</b> 数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」としてとらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。
5	○乗法の意味の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗法の式から、その場面をおはじきで表す。</li> <li>・ 並んだおはじきを乗法の場面としてとらえ、乗法の式に表す。</li> </ul>	<b>表</b> 乗法の場面ととらえられる場面を式に表したり、乗法の式から場面を表現したりすることができる。
6 (2組本時)	○乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場面をとらえ、立式や答えの求め方について考える。</li> <li>・ 乗法の答えは、被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。</li> </ul>	<b>表</b> 乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。
7	○乗法の場面としてとらえることができる場面が、身の回りに多くあることを知るとともに、乗法の意味の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [やってみよう] 乗法の場面としてとらえることができる身の回りの場面を探し、乗法の式に表す。</li> </ul>	<b>関</b> 学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。
② 5の段、2の段の九九		【6時間】 p 11～14	
1	○5の段の九九を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1台の車に5人ずつ乗っているときの1～4台分の人数を求める。</li> <li>・ 累加や5とび、アレイ図などを用いて5の段の九九を構成する。</li> </ul>	<b>知</b> 5の段の九九の構成のしかたを理解している。
2 ・ 3	○5の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 用語「九九」を知り、5の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</li> <li>・ 5の段の九九の答えは5ずつ増えていることを確認する。</li> <li>・ 5の段の九九を用いて問題を解決する。</li> </ul>	<b>表</b> 5の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。
4	○2の段の九九を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1台の自転車に2人ずつ乗っているときの1～5台分の人数を求める。</li> <li>・ 累加や2とび、アレイ図などを用いて2の段の九九を構成する。</li> </ul>	<b>考</b> 5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の構成を考えている。 <b>知</b> 2の段の九九の構成のしかたを理解している。
5 ・ 6	○2の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</li> <li>・ 2の段の九九の答えは2ずつ増えていることを確認する。</li> </ul>	<b>表</b> 2の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。

		・2の段の九九を用いて問題を解決する。	
③ 3の段、4の段の九九		【7時間】 p 11～14	
1	○3の段の九九を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1台のコーヒーカップに3人ずつ乗っているときの1～4台分の人数を求める。</li> <li>・<math>3 \times 4</math>の答えにいくつたせば<math>3 \times 5</math>になるのかを考える。</li> <li>・<math>3 \times 5</math>の積に3たせば<math>3 \times 6</math>の積になることを活用して、3の段の九九を構成する。</li> <li>・用語「かけられる数」「かける数」を知る。</li> </ul>	考 乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。
2 ・ 3	○3の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</li> <li>・3の段の九九の答えは、乗数が1増えると3増えることを確認する。</li> <li>・3の段の九九を用いて問題を解決する。</li> </ul>	表 3の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。
4	○4の段の九九を構成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1台のジェットコースターに4人ずつ乗っているときの1～5台分の人数を求める。</li> <li>・<math>4 \times 3</math>のかける数が1増えると答えが4増えることを確認する。</li> <li>・4の段では、かける数が1増えると答えが4増えることを活用して、4の段の九九を構成する。</li> </ul>	考 乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。
5 ・ 6	○4の段の九九を記憶し、適用する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4の段の九九を唱え、カードなどを使って練習をする。</li> <li>・4の段の九九の答えは、乗数が1増えると4増えることを確認する。</li> <li>・4の段の九九を用いて問題を解決する。</li> </ul>	表 4の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。
7	○問題作りによる、式の読みや式に表現することを通して、5、2、3、4の段の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵を見て、<math>2 \times 4</math>の式で表すことができる場面を探す。</li> <li>・絵を見て、乗法の式に表すことができる場面を探し、式に表す。</li> </ul>	<p>関 乗法を用いる場面をとらえたり、言葉や式で表現したりしようとしている。</p> <p>考 乗法の場面としてとらえることができる場面を見つけ、式に表したり、乗法の式を読んだりすることを通して、乗法の式の意味について考えている。</p>
◎まとめ		【2時間】 p 20～21	
1	○学習内容を確実に身につける。	・「力をつけよう」に取り組む。	表 学習内容を正しく用いて、問題を解決することができる。

2	○学習内容の理解を確認する。	・「たしかめよう」に取り組む。	<input checked="" type="checkbox"/> 基本的な学習内容について理解している。
---	----------------	-----------------	---

5 本時の学習（1組 4 / 2 2時間）

(1) 目標

- ・数量の関係を「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえ、乗法の式に表すことができる。

表 乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、式を読んだりすることができる。

(2) 指導の構想

ア 研究内容1「自分の考えをもつための算数的活動を位置付けた指導の充実」について

前時までの既習事項を算数コーナーを活用してふりかえる。その際、「同じ数ずつ」のまとまりを「ひとつ分」とみる見方に着目させる。また、「1つ分の大きさ」を表す数をはじめに、そして「いくつ分」を表す数を次に書き、乗法の式に表せることを確認する。そのうえで、絵図を活用しながら自力で適用問題を解かせる。

イ 研究内容2「確かに表現できる力を育てるための算数的活動を位置付けた指導の充実」について

スムーズに活動できるように、まず、絵の中から一つ選び教師と一緒に試してみる。次に自力で行ってみる。それをもとに、ペアで学習する活動を取り入れる。友達の考えを聞くことにより、自分の方法と同じか、違うかという点に気づかせ、修正も含めて考えを確かなものにさせていく。さらに、集団解決場面では、全てに共通する「1つ分の数」×「いくつ分」に気づかせる。

(3) 展開

段階	学習内容および学習活動 (◎)	評価 (□) と支援 (○) ★1 (研究内容1) ★2 (研究内容2)
つかむ 10分	1 前時の振り返り ◎既習事項を振り返る。  2 課題把握 <input checked="" type="checkbox"/> かけ算のしきにあらわそう。	★1 算数コーナーを活用し、前時の学習内容を振り返らせながら、「単位とする大きさ」の「いくつ分」ととらえさせる。 ○既習事項をもとにして、絵図を見ながら教師と一緒に試してみる。 <input checked="" type="checkbox"/> 表 乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり、式を読んだりすることができる。(発言・シート)
見通す 10分	3 解決の見通し ◎解決の方法を見通す	○かけ算の式になりそうな場面を見つけさせる。

<p>確かめる 20分</p>	<p>4 自力解決 ◎絵図を見ながらかけ算の式に表す方法を考え、シートに書く。</p> <p>5 集団解決 ◎ペアで伝え合う。 ◎全体の中で、「1つ分の数」×「いくつ分」を確認する。 ◎コーヒーカップについて考える。</p>	<p>○とまどっている児童には、「1つ分の数」や「いくつ分」がどれにあたるのか、一緒に探す。</p> <p>★2 ペアで伝え合うことにより発言の機会をふやし、自分の考えと同じか違うかについて考えながら聞くようにさせる。</p> <p>○コーヒーカップに乗っている人の人数について、かけ算の式に表せないか考えさせる。</p>
<p>まとめる 5分</p>	<p>6 まとめ かけ算は「1つ分の数」×「いくつ分」であらわす。</p> <p>7 学習のふりかえり ◎今日の学習を振り返る。 ◎次時の学習内容を知る。</p>	<p>○すべてに共通することは、「1つ分の数」×「いくつ分」であることをおさえ、まとめにする。</p> <p>○学習でわかったことを評価させる。 ○次時の学習を伝える。</p>

(4) 本時の評価規準と具体的評価規準

到達状況 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	Bに至らない児童への教師の支援
<p>乗法の場面としてとらえることができる場面を乗法の式に表したり式を読んだりすることができる。</p> <p>表</p>	<p>乗法の意味を正しく理解し、かけ算の式でたくさん表すことができる。</p>	<p>乗法の意味を正しく理解し、かけ算の式で表すことができる。</p>	<p>絵図から「1つ分の大きさ」「いくつ分」はどれに当たるのか、一緒に見つけながら、正しい式に気づかせる。</p>

(5) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">かだい</div> かけ算のしきにあらわそう。		<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">まとめ</div> かけ算は「1つ分の数」×「いくつ分」であらわす。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           ゴーカー  <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <span>1つ分の数</span> <span>いくつ分</span> </div>           1台に5人ずつ3台分            しき <math>5 \times 3</math> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           かんらん車  <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <span>1つ分の数</span> <span>いくつ分</span> </div>           1台に3人ずつ4台分            しき <math>3 \times 4</math> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           ひこうき  <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <span>1つ分の数</span> <span>いくつ分</span> </div>           1台に4人ずつ6台分            しき <math>4 \times 6</math> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           花  <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <span>1つ分の数</span> <span>いくつ分</span> </div>           1つに8本 2つ分            しき <math>8 \times 2</math> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           じてん車  <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <span>1つ分の数</span> <span>いくつ分</span> </div>           1台に2人ずつ6台分            しき <math>2 \times 6</math> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           ジェットコースター  <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <span>1つ分の数</span> <span>いくつ分</span> </div>           1台に4人ずつ5台分            しき <math>4 \times 5</math> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">           テーブル  <div style="display: flex; justify-content: space-between; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <span>1つ分の数</span> <span>いくつ分</span> </div>           1つに6人ずつ3つ分            しき <math>6 \times 3</math> </div>	コーヒーカップ

5 本時の学習（2組 6 / 2 2時間）

(1) 目標

- 乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。

**表** 乗法の答えを、被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。

(2) 指導の構想

ア 研究内容1「自分の考えを持たせるための算数的活動を位置付けた指導の充実」について

自力解決で停滞しないよう、問題把握の段階では「1つ分の数」と「いくつ分」にあたる数に着目させ、立式する過程を丁寧に扱いたい。また、自力解決で自分の考えをもてない児童には、累加についてヒントとなるようなカードを用意する。

イ 研究内容2「確かに表現できる力を育てるための算数的活動を位置付けた指導の充実」について

全体での集団解決の前には、ペア同士で考えを発表し、一度自分の考えを整理する場を設ける。全体での集団解決では、半具体物を操作したり○図をかいたりしながら答えを求める方法や、加法を用いた方法などを取り上げたい。その際、どのように答えを導いたのか順序よく説明させていきたい。また半具体物や○の数、式の数や答えを「1つ分の数」「いくつ分」「ぜんぶの数」と対応させながら説明させ、まとめにつながる共通点を発見させていきたい。

(3) 展開

階	学習内容および学習活動 (◎)	評価 (□) と支援 (○)
		★1 (研究内容1) ★2 (研究内容2)
つかむ	1 問題把握 ◎問題を確認する。 ◎「何のいくつ分」という表現をもとにして立式する。	★1 「1つ分の数」と「いくつ分」にあたる数量をおさえて、「何のいくつ分」になるか考えさせる。
5分	2 課題把握 8 × 3の答えの求め方を考えよう。	
見通す	3 解決の見通し ◎解決の方法を見通す。 ・おはじきや○を数える。 ・たして考える。 ・文で考える。 ・九九で考える。(未習)	○答えの見当をつけさせる。 ★1 前時に行ったおはじきの操作の他にも、既習事項が使えないか考えさせる。そしてどの方法で取り組むか自己決定させる。

<p>確 か め る  22 分</p>	<p>4 自力解決 ◎ <math>8 \times 3</math> の答えの求め方を考え、ノートに書く。</p> <p>5 集団解決 ◎ どのように考えたのか、ペアで伝え合う。</p> <p>◎ どのように考えたのか発表し合い、考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ おはじきや○を数えて24。</li> <li>・ 8をたして考える。 <math>8 + 8 = 16</math>, <math>16 + 8 = 24</math></li> <li>・ 文で考える。 8が3つあるから、たして24。</li> <li>・ 九九で考える。<math>8 \times 3 = 24</math></li> </ul>	<p>★1 とまどっている児童にはヒントカードを活用させる。</p> <p>○九九で考えた児童には、どうしてその答えになるか説明できるようにさせる。</p> <p>○早く終わった児童には、別の方法でも行うよう促す。</p> <p>★2 自分の考えをペアで話させ、考えを整理させる。</p> <p>★2 どのように考えたのか、順序よく説明させる。</p> <p>○表現の仕方に不足がある場合は、発問や板書により、補足する。</p> <p>★2 それぞれの考えについて、図や式の中の数字を「1つ分の数」「いくつ分」「ぜんぶの数」とそれぞれ対応して説明させる。</p>
<p>ま と め る  15 分</p>	<p>6 まとめ ◎ かけ算の答えの求め方をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p><math>8 \times 3</math> の答えは、<math>8 + 8 + 8</math> でもとめることができる。</p> </div> <p>7 適用問題 ◎ 教科書9ページの練習問題④⑤を解く。</p> <p>8 振り返りと次時の予告 ◎ 今日の学習を振り返る。 ◎ 次時の学習内容を知る。</p>	<p>○ 課題に対応した形でまとめる。</p> <p>○ 累加の式のどの数と「1つ分の数」「いくつ分」が、対応するのか確かめる。</p> <p>○ ④の1問は全体で行い、理解を図る。</p> <p>○ 乗法の答えの求め方は被乗数を乗数の分、累加することを利用して問題を解かせる。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">表</span> 乗法の答えを、被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。(ノート・発言)</p> <p>○ 学習でわかったことを評価させる。</p> <p>○ 次時の学習を伝える。</p>

(4) 本時の評価規準と具体的評価規準

到達状況 評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	Bに至らない児童への教師の支援
乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。 <b>表</b>	乗法の答えを求めるために、被乗数の数を乗数の数だけ累加する式に表し、正しく計算することができる。	乗法の答えを求めるために、被乗数の数を乗数の数だけ累加する式に表すことができる。	「1つ分の大きさ」にあたる数が「いくつぶん」あるかを確かめさせる。たし算で答えを求められるカードを用意する。

(5) 板書計画

<p><b>もんだい</b></p> <p>1ふくろにパンが8まいずつ入っています。3ふくろでは、パンは何まいになりますか。</p>	<p><b>かだい</b></p> <p><math>8 \times 3</math>の答えのもとめかたを考えよう。</p>	<p><b>まとめ</b></p> <p><math>8 \times 3</math>の答えは、<math>8 + 8 + 8</math>でもとめることができる。</p>	
<p>しき <math>8 \times 3</math></p> <p style="margin-left: 20px;">1つ分の数    いくつ分</p>	<p><b>見通し</b>・おはじき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○図</li> <li>・たし算</li> <li>・文</li> <li>・九九</li> </ul>	<p><b>れんしゅう</b></p> <p>④ (1) クリームパン</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>4 \times 5 = 20</math>      <u>20こ</u></p> <p style="margin-left: 40px;"><math>(4 + 4 + 4 + 4 + 4 = 20)</math></p> <p>(2) ペン</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>3 \times 7 = 21</math>      <u>21本</u></p> <p style="margin-left: 40px;"><math>(3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 + 3 = 21)</math></p> <p>(3) のり</p> <p style="margin-left: 20px;"><math>2 \times 9 = 18</math>      <u>18本</u></p> <p style="margin-left: 40px;"><math>(2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 18)</math></p> <p>⑤ <math>7 \times 4</math></p> <p style="margin-left: 20px;"><math>7 + 7 + 7 + 7 = 28</math></p>	
<p>児童の考え</p> <p>おはじき(○図)で考える。</p> <p>●●●●●●●●</p> <p>●●●●●●●●</p> <p>●●●●●●●●</p> <p>数えて24。</p> <p><u>答え 24まい</u></p>	<p>児童の考え</p> <p>たして考える。</p> <p><math>8 + 8 = 16</math></p> <p><math>16 + 8 = 24</math></p> <p><u>答え 24まい</u></p>	<p>児童の考え</p> <p>文で考える。</p> <p>8が3つあるから、たして24。</p> <p><u>答え 24まい</u></p>	